農林水産大臣賞の受賞者

【経営改善部門（個人経営体）】

熊本県苓北町　大仁田　繁利・大仁田　貴美子（おおにた　しげとし・おおにた　きみこ）氏

＜受賞のポイント＞

毎シーズンの契約交渉を通じ、契約栽培率 90％超の安定した利益率の高い販路を確保するとともに、品目毎に生産動機を明確化し、周年雇用と安定収入を確保した経営を実現した。

大型冷蔵庫等の導入により、出荷時期の平準化と廃棄率の低減を図るとともに、全自動移植機の 導入や出荷用段ボール規格の統一により、規模拡大と生産性の向上を両立した。

共同経営者である配偶者と役割分担を明確化し、配偶者が現場の工程管理や従業員の人間関係づくりなどの現場最適化を担い、女性や外国人材が活躍できる環境を整備した。

【経営改善部門　（法人経営体）】

滋賀県甲賀市　　農事組合法人グリーンティ土山

代表：藤村　春樹（ふじむら　はるき）氏

＜受賞のポイント＞

地域の茶園を集積し、完全協業制による栽培・製茶・出荷販売までを一体的に自社で管理することで、市場価格の変動に強く、高品質で均質な生葉の生産を実現した。

煎茶価格の低迷を受けて、先行投資として大型てん茶工場の整備を行うとともに、乗用型農業機 械の導入により、抹茶需要拡大を的確に捉え、収益性を飛躍的に向上させた。

地域の生産者からの生葉の持ち込み加工を受託する仕組みにより、摘採時期の平準化と工場稼働 率の向上だけでなく、地域農業の維持・発展に寄与した。

富山県朝日町 株式会社 TAGOSAKU

代表：安達　久真（あだち　ひさまさ）氏

＜受賞のポイント＞

農作業計画の立案を従業員に権限委譲することで、限られた農業機械・施設の稼働率を向上させ るなど、高い労働生産性につなげた。

生産するコメの約 9 割を取り扱う卸売業者とともに営業交渉を行うことで、主体的に価格形成に関与し、安定した販路と収益を確保しながら規模拡大を進めた。

経営耕地はすべて借地であり、中古施設を活用することで、高い実質自己資本比率を確保するだけでなく、高温耐性品種への転換等により、高温条件下でも高い品質の米生産を実

現した。

鹿児島県志布志市　有限会社上室製茶

代表：上室　和久（かみむろ　かずひさ）氏

＜受賞のポイント＞

煎茶中心の経営からてん茶生産へ転換するとともに、海外での抹茶需要に応えるため、有機栽培を導入するとともに、海外需要の動向に左右されないよう、大口の販路を確保しつつ、ブラン ディングによる販路の多角化を図った。

茶園の集積・拡大や、DX 担当者を配置した営農管理システムの活用を通じて、労働生産性や収益の向上やデータに基づく経営判断を進めた。

スキルマップ、人事評価制度の活用や定期的な個人面談を行うほか、茶葉高騰で得た利益を従業 員育成に投資し、持続可能な農業経営の確立を図った。

【技術革新部門】

新潟県新発田市 有限会社アシスト二十一

代表：木村　清隆（きむらきよたか）氏

＜受賞のポイント＞

乾田直播栽培への転換や畦抜きによる大区画化を進めるとともに、機械化一貫体系の構築により、大幅な省力化・コスト低減と急速な農地集積への対応を両立させた経営を確立した。

衛星データを活用した栽培管理システムや営農支援アプリなどスマート農業技術を積極的に導入し、収集したデータを積極的に従業員と共有することで効率的な経営管理を実現した。

稲作地域において主食用米の生産以外にも、稲発酵粗飼料(稲 WCS)、デントコーンのほか、その裏作としてイタリアンライグラスを栽培するなど、稲作だけに頼らない生産体系を確立した。

【付加価値創造部門】

新潟県南魚沼市 株式会社関農園

代表：関　智晴（せき　ともはる）氏

＜受賞のポイント＞

自家採種した農薬不使用の種もみを良田で育成するほか、自家製造した有機肥料を人力で細かく 施肥するなど、こだわりの栽培方法を導入することにより高品質で良食味の米を安定生産した。

ふるさと納税、自社オンラインショップ、直売所だけで全量を販売しており、お店でしか買えないという希少価値を創出し、富裕層にターゲットを絞った、ブランド力を高める経営戦略を実践 した。

塩むすびや玄米コーヒーも提供する直売所では、外壁に地元産杉を使い、周りを囲む水田と調和した店舗づくりを行い、米のおいしさや地域の魅力を体感できる場を創出した。

【地域創生部門】

石川県穴水町　　能登ワイン株式会社

代表：村山　隆（むらやま　たかし）氏

＜受賞のポイント＞

契約農家への技術指導や生産したワイン用ぶどうを高価で買い取るなど産地形成を図るとともに、土壌改良にも地元産牡蠣殻を使うなど、地域資源をいかした高品質なワインづくりを実現し た。

ブドウの木のオーナー制度を導入し、安定した販路を確保するだけでなく、全国にファン層を獲 得することで、天候に左右されない安定した経営を確立した。

能登半島地震による甚大な被害を受けながらも早期に事業を再開し、地域ワイナリーや関係機関 と連携して復旧・復興を牽引することで、地域の雇用や賑わいの創出に寄与した。

【担い手づくり部門】

愛媛県松山市　　株式会社 OC ファーム暖々の里

代表：長野 隆介（ながの りゅうすけ）氏

＜受賞のポイント＞

若手農業者や新規就農者が学び合い、支え合う環境づくり（若手農業者組織「HAPP」の活動など）を進め、地域全体の担い手育成に貢献している。

従業員に判断と責任を持たせ、主体的に部門を運営する組織運営に取り組むとともに、農業大学校の研修生や外国人技能実習生の受入れを通じた人材育成に取り組んでいる。

柑橘と野菜を組み合わせた周年生産に加え、スマート農業技術や農福連携を活用して省力化と労働力確保を推進し、担い手の雇用・育成を可能とする経営基盤を形成している。

熊本県阿蘇市　　斉藤　　孝幸（さいとう　たかゆき）氏

＜受賞のポイント＞

多くの研修生を受け入れ、栽培技術に加え、経営管理や就農準備まで実践的な指導を行い、地域への定着を見据えた継続的な支援に取り組んでいる。

リタイアした農家の中古ハウスや農業機械を活用して初期投資を抑える経営手法を確立し、就農後も共同作業や技術指導を継続するなど、新規就農者の安定経営を支援している。

土づくりによる単収を増させる技術を地域へ共有し、多くの研修修了生を中核的なトマト生産者として育成することで、産地の発展と担い手育成に貢献している。